

震災記憶継承 合唱に託す

3日、仙台 追悼コンサート

東日本大震災の犠牲者を悼む合唱コンサート「レクイエム・プロジェクト仙台」が3日、仙台市青葉区の電力ホールで開催される。主催者で、長野五輪の公式楽曲などを手掛けた作曲家、上田益さん(70)は「震災の記憶を音楽を通じて次世代に引き継いでいきたい」と話している。

21曲披露「心癒やして」

被災者が自身の思いを合唱で表現するプロジェクトで、2008年に阪神大震災の被災地・神戸市で始まった。毎年、災害が起きた各地を回り、仙台での開催は14回目となる。

上田さんは大阪府出身。阪神大震災の1年前に東京に拠点を移しており、変わり果てたふるさとの様子をテレビ越しに見守ることでできなかつた。以来、「音楽は被災地のために何ができるのか」と問い続ける日々が続いた。



合唱団の練習で指揮をする上田さん(4月25日、仙台市太白区で)

1999年に追悼イベント「神戸ルミナリエ」で披露する合唱曲の作曲を依頼され、「問いかけへの答えが出た気がした」と感じた。「音楽を通じて被災地の思いを共有していく」。その思いが活動の原点だ。

追悼コンサートを継続的に行うと、2008年に合唱団の公募を開始。関西各地から100人近くの団員が集まった。上田さんは団員から被災経験を聞き、曲に落とし込んだ。

阪神大震災から15年がたった10年、10曲のレクイエムが完成。「悲しみや苦しみといった重荷を曲に託して歌っていく」と活動を神戸市に限らず、東京、沖縄、長崎、広島と被災地にも広げていった。

現在、仙台合唱団の団員は約60人。津波で家族を亡くした団員もおり、そのほとんどが被災者だという。上田さんは「この合唱団では心を一つにする必要はない。人によって異なる被災状況や抱える思いを重ね合わせていきたい」と話す。

3日のコンサートでは、東日本大震災をテーマにした曲など計21曲を披露。上田さんは「音楽には歌う人、聴く人を癒やす効果がある。あれから15年間、どのように生きてきたのか、振り返りながら聴いてほしい」と呼びかけている。

午後2時開演(開場は1時半)。入場料は前売り1500円、当日2000円。チケット

チケットの購入や問い合わせ、入団の相談は仙台合唱団の米田和由さん(090・3648・1868)まで。